

# 日本生態学会における男女共同参画および若手支援の取組

## 日本生態学会 キャリア支援専門委員会

日本生態学会では、これまで将来計画専門委員会が、生態学分野の男女共同参画や若手研究者支援について、学会としていかに貢献できるかについて検討を重ねてきました。2010年には将来計画専門委員会から独立する形で「キャリア支援専門委員会」が発足しました。

本委員会は「生態学若手の会」とも連携し、生態学会における男女共同参画および若手研究者のキャリア支援に関する活動を一体的におこなっています。

以下に日本生態学会による取組みの一部を紹介します！

### 若手支援フォーラム

2008年より全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。さまざまな立場にある会員による話題提供をとおり、会員の男女共同参画に関する意識を高めるとともに若手支援のための課題と方策について考える機会を提供している。

「若手研究者のキャリアパス支援  
—民間企業・自治体でキャリアを活かす—」

生物多様性や環境保全を視野に入れた活動を展開している企業や自治体の担当者に話題提供してもらい、「生態学を学んだキャリアパスをどのように活かすか」をテーマにした活発な議論がおこなわれた。

2012年

さらに企業ブースを設置！  
企業担当者との面談もおこない、  
多くの学生がブースを訪れた



2011年 「若手研究者のキャリアパス—就職先の多様化と将来性」  
民間企業に就職した博士と、博士を採用している企業の双方に話題提供をしてもらい、民間企業への就職の可能性と将来性について議論した。

2010年 「若手のための学位取得後のキャリア支援」  
大学の助教や国立研究所のポストクなどの採用の際の審査・評価のポイントなどについて情報を提供。

2009年 「若手のための学位取得後の多様なキャリアパス支援」  
ノンアカデミックなキャリアパス会員による話題提供と、グローバルCOEでのポストクのキャリア支援事業の紹介を通して、生態学分野での若手の活躍の場の将来性と可能性について議論した。

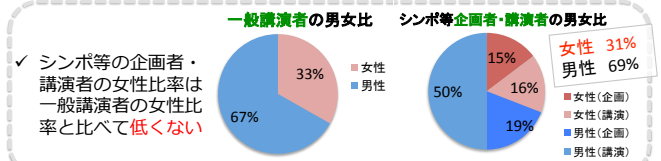
2008年 「男女共同参画から若手支援へ」  
“育児も研究も” “アカデミックキャリアを目指そう”という2つのテーマの下、生態学分野での男女共同参画の推進と若手支援のための課題と方策について議論した。

### 男女共同参画

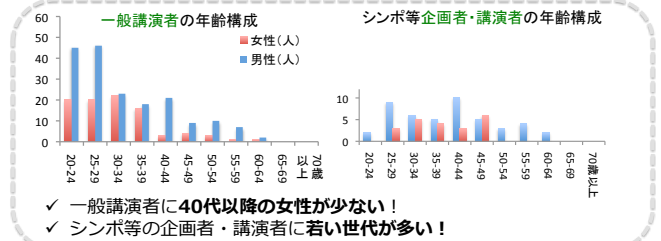
- ❖ 男女共同参画学協会への加盟
- ❖ 大規模アンケートへの参加
- ❖ 学会発表での女性のリーダーシップに関する現状調査  
「学会を含むリーダーシップ活動における機会均等WG」

#### Q. シンポ企画者・講演者の女性比率は低いのか？

これまでに7つの学会が講演者の属性調査を実施⇒シンポ等企画者・講演者の女性比率は低い傾向！  
生態学会では2012年の大会参加申込HP上でアンケート調査を実施（回答数348、回収率17%）



✓ シンポ等の企画者・講演者の女性比率は一般講演者の女性比率と比べて低くない



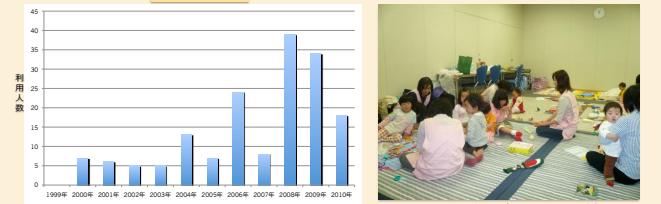
- ✓ 一般講演者に40代以降の女性が少ない！
- ✓ シンポ等の企画者・講演者に若い世代が多い！

A. 生態学会では若手と女性のリーダーシップが発揮されている！

### 大会開催時における託児室の設置

第46回大会(1999年)では有志による託児室の設置、続く第47回大会(2000年)では大会本部により託児室が設置されました。第48回大会(2001年)では学会として継続して託児室を設置するという方針が全国委員会と総会で確認され、以後、毎年開設されています(これまでの利用者数は下図の通り)。

#### 利用実績



▲託児の様子(2008年福岡大会)

### 女子中高生夏の学校 ～科学者・技術者のたまごたちへ～

(男女共同参画学協会主催事業への協力)

年	実験題目	内容	参加者
2008年	野鳥の森自然観察	大麻生公園野鳥の森(熊谷市)にて、天然の河畔林の動態・外来種の管理(ニセアカシア)・火入れによる草本管理の自然観察を実施。	16名
2009年	河辺の生態系を観察しよう	大麻生公園野鳥の森(熊谷市)にて自然観察を行った。荒川中流域の河畔の草地、森林と川のかかわり、外来種の問題や管理(ニセアカシア)、絶滅危惧種植物の保護などを考える機会として実施。	9名
2010年	水辺の生態系を観察しよう	2009年と同様の内容で実施	17名 (中学生4名、高校生13名)
2012年	水辺の生態系を観察しよう	2012年8月に開催	



▲シロダモの年輪を計測。スギより若いことがわかる。



▲ソーセージのようなガマの花序の観察



▲クサギの花の香りを嗅ぐ



▲スギの樹幹コアを採取する

#### ●企画者および参加者の感想●

初めて見る植物に対して素直な驚きを見せる生徒が多かった。純粋に生物観察を楽しんでいる様子であった。本実習の大きな目的の一つである「生の生物に触れる」ことは、達成されたと思われる。観察後に生徒の感想を聞いたところ、クサギの花・葉の匂いの好き嫌い、ナデシコの花がきれいなど、感覚に残る事項がよく挙げられた。また、ヒトが自然を管理することに対する考えなど、率直な意見も挙げられた。